

1.目的 文翔館周辺は新拠点整備により変化の好機がありますが、道路拡幅による回遊性の低下等が懸念されています。本構想では道路計画を再検討し、歴史・文化を活かした「居心地が良く歩きたくなるまち」への転換を目指し、広場などの公共空間の将来像と実現に向けた施策の方向性を示します。

2.主な上位計画の考え

- 第4次山形県総合発展計画
 - 居心地が良く歩きたくなる道路空間の形成の推進
- 山形県道路中期計画2028
 - 良好な景観を創出する無電柱化や賑わい空間形成
- 山形市立地適正化計画
 - 歩いて暮らせる健康で賑わいのあるまちづくり
- 山形市中心市街地グランドデザイン
 - 歩くほど幸せになるまち

3.対象エリアの現状

- 人口減少等
- 豊富な地域資源やオープンスペース
- まちなか賑わいの取組
- 景観に配慮した取組
- 滞在者数と歩行者交通量
- オープンスペースの活用不足
- 地域資源や人の活動を感じにくい
- 安全・快適な歩行者空間の不足

4.住民の意見等

文翔館の雰囲気を活かすとよい歩やすい木陰が欲しい
安心して歩道を歩きたい
車道が狭く自転車を通りづらい
子供も楽しめるまち、ほっとする場所、ゆっくり過ごせる空間が欲しい
消雪が無いと冬歩きにくい
開放的で明るいエリアだとい など

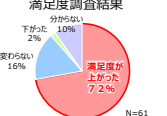
R6ワークショップ開催状況



R7シンポジウム開催状況



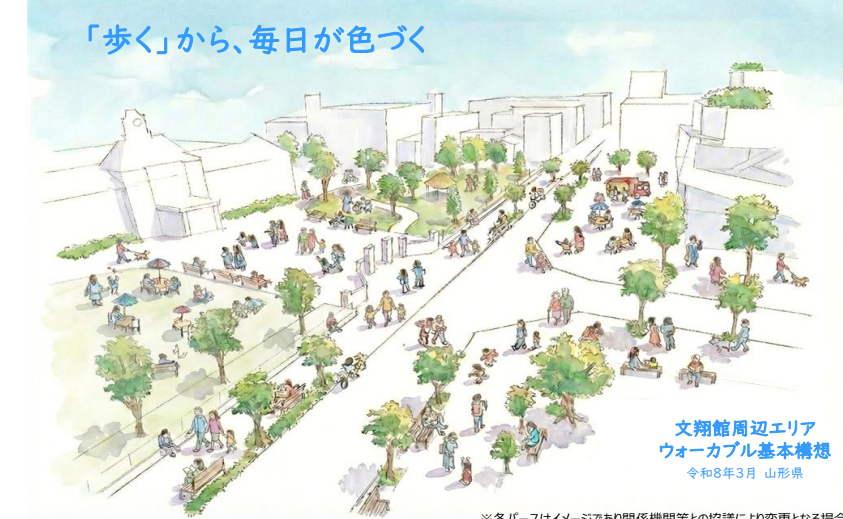
R7社会実験における滞在環境満足度調査結果



5.めざすまちの姿

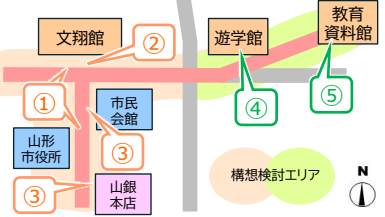
【将来像】心地よいつながりが、心豊かな『幸せ』を育むウォカブルなまちへ
～歴史・文化と緑が息づく文翔館エリアで～

- 基本方針1 誰もが安全・快適に移動できる、歩行・回遊ネットワークを構築する
- 基本方針2 歴史・文化と緑を活かし、多様な過ごし方ができる居心地の良い空間を創出する
- 基本方針3 多様な活動と交流の機会を創出し、心地よいつながりを育む

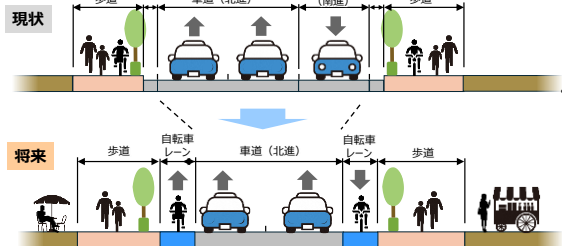


6.各個別施策

位置図



① 県道（(都)双月志戸田線、(都)旧県庁半郷線）の見直し



- 道路空間の使い方の見直しにより歩行者と自転車の空間を明確に分離し、安全・快適に通行できる通行環境を目指します。
 - あわせて無敵水消雪設備の導入を検討し、冬期間も快適に通行できるネットワークの構築を目指します。
- ※左の横断図は旧県庁半郷線のイメージ図です。

② 文翔館前広場の活用



- 道路空間を柔軟に使える「ほこみち※」制度の導入を検討します。
- ベンチやカフェの設置、イベント開催を促進し、便利で賑わいあふれる空間の創出を目指します。

③ 市民会館等と道路空間の連携



- 生垣等を整え、広場と歩道を視覚的につなぎ、開放感と落ち着きのある空間の創出を目指します。
- ベンチ等の配置により滞留を促し、広場の賑わいが通りにじみ出す好循環の創出を目指します。

④ 遊学館前広場の活用



- オープンスペースと歩道の段差等をなくし、一体的なフラット空間を創出します。
- 回遊性を高め、施設内の賑わいがまちへじみ出す自由な活用を促進します。

⑤ 教育資料館前広場の活用



- 広場活用や車線廃止等の社会実験を行い、結果を設計に反映します。
- 実験を「助走期間」と位置づけ、市民が新しい使い方慣れ、愛着を育む日常の風景へ定着させることを目指します。

⑥ 遊学館前広場の活用



- 全体を開放的な空間にすることで、多様な活動を受け止める居心地の良い空間の創出を検討します。
- 山形市と連携し、市道を含めた文翔館からの回遊性を高める環境を検討します。

⑦ 教育資料館前広場の活用



7.ロードマップ

○主な取組みのスケジュール（予定）

内容	R7	R8～R12	R13以降
ウォーカブル基本構想の策定 ほか	パブリック	R8 山銀本店	R11 新市民会館
道路整備①（旧県庁半郷線：市役所前）		R8事業化	
道路整備②（双月志戸田線：文翔館前）			
具有施設の利活用等（文翔館等）			
道路空間の利活用等（ほこみちの運用等）			

※ほこみち（歩行者利便増進道路）幅の広い歩道にオープンカフェやベンチなどを置いて、歩行者にとって便利にぎわいあふれる空間として利活用できる制度

※各バースはイメージであり関係機関等との協議により変更となる場合があります